

砂防環境整備事業

下流部逆瀬川駅周辺

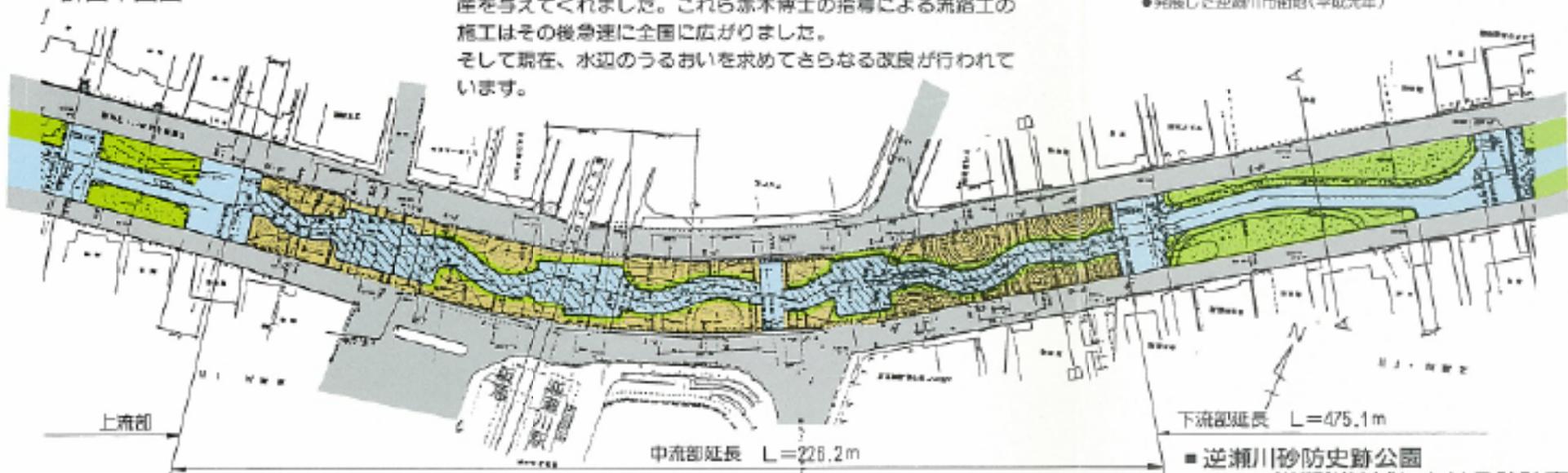
■ 赤木正雄博士ゆかりの近代砂防発祥地

逆瀬川では、下流2級河川武庫川への土砂流出から起こる河道閉塞による氾濫を防止するため上流部において砂防、山腹工事が明治28年より大正6年まで積極的に実施されました。しかし流出土砂は依然多く、その原因は、中下流部土砂の移動であることが判明しました。そこで昭和3年にここ逆瀬川で河道固定を目的とした大規模な流路工(L=2km)施工が日本で初めて認められました。

そして従外に新たにできた広大な土地は住宅地として見事な財産を与えてくれました。これら赤木博士の指導による流路工の施工はその後急速に全国に広がりました。

そして現在、水辺のうるおいを求めてさらなる改良が行われています。

■ 計画平面図



●発展した逆瀬川市街地(平成元年)



●逆瀬川砂溜と呼ばれていた大正期の逆瀬川(3枚対比写真)

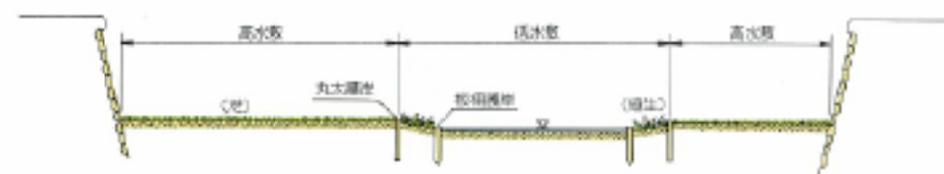


●昭和初期に施工された流路工(平成元年)



●水辺に自然とのふれあいをももて(平成3年)

■ 下流部断面図 A-A



■ 中流部断面図 B-B



■ 逆瀬川砂防史跡公園 逆瀬川流域における砂防事業概要

	①水と緑の砂防モデル事業(公共)	②砂防学習ゾーンモデル事業(公共)	③砂防モニュメント(具半)	④砂防環境整備事業(公共)
目的	中上流部の氾濫と景観地においては、自然と調和した砂防計画による、より良い地域整備を進めます。当該地の環境整備は、下流への土砂流出を防止し又、両岸に生み出された土地は宝塚市と一緒に公園整備を行い、広く市民に憩いの場を提供します。	流域の氾濫が多くなる砂防施設を安全しながら周辺の地形や環境に配慮しつつ砂防学習の場を提供します。そして人々に豊かな自然と安全な街と砂防とのかかわり合いを知っていただき防災意識の向上を促します。特に上流部は、従来からハイキングやキャンプ場等、市民の憩いの場としても大変親しまれています。	逆瀬川は本県砂防発祥の地であり、以来100年に渡り砂防とともに歩んできました。これを記念し、この由緒ある地にモニュメントを建設しました。	昭和初期に玉石積流路工で一次改修されている区間について環境整備を行います。又都市の中の貴重な河川空間として、景観あるいは日本の歌謡や子供の遊び場としても利用できるように保水にも配慮した都市コミュニティゾーンとして位置づけ、現況河川の環境改善を図ります。
事業・概要	全体計画 L=435m 工期 昭和28年~平成元年 概 算 石積護岸 H=2.0m 階段護岸 2ヶ所 植 樹 工 9ヶ所 残石帯工 1ヶ所	全体計画 武庫川合流部~上流部 工期 平成元年~平成2年 概 算 砂防学習パネルの制作 砂防モニュメントの台座部 砂防「逆瀬川その歩みとふれあい」の制作 公園施設(アプルーイス)1.0式 砂防設備修繕 2箇所	全体計画 砂防モニュメント 1式 工期 平成元年~平成2年 概 算 H=14.8m D=20.0m(30m) 見晴らし台 4ヶ所 砂防学習パネル 4面	全体計画 L=1,580m 工期 平成元年~0年 概 算 低水護岸 H=0.2m 護 岸 石材、榎木 高 水 敷 自然石、菅生 河 床 サヤ型ブロック(新設部)
指定	山腹砂防指定地 内務省告示 第153号 明治42年11月18日	都市計画決定 ゆずり集積地(3.2ha) 兵庫県告示 第94号 昭和33年6月17日	砂防指定地 内務省告示 第40号 (3川(限のみ) 昭和2年10月21日 [武庫川合流点より双塔橋の間は] 2級河川区画と重複する。	
その他		② 砂防学習ゾーン ゆずり集積地公園の整備 工期 昭和33年~平成2年	宝塚市環境水辺の自然石帯 工期 平成元年~平成4年	

